

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkvu@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>

department/Top/kvouiku/i/kvouikukenkvu

追 懐

氷見市中学校長会 会長

氷見市立南部中学校 校長 中 館 直 浩



ものごとを早く進めないと気がすまない性分になつたせいか、いつも先のことばかり考え、あれこれ悩みながら毎日を過ごしています。そんな私

ですが、最近では、昔のことを思い出して懐かしむことが多くなりました。

教員になってからの38年間、多くの先輩はもちろんのこと、これまで出会った同僚や後輩、保護者や地域の方々、そして教え子たちからもたくさんのことを教えてもらいました。満60歳になった今、教員として、人間として、少しは成長できたかなとは思いますが、心に残る先輩方を思い浮かべると、その背中はまだまだ遠いように感じます。

昭和62年4月、初任校は湖南小学校でした。3年2組29名の担任としてスタートし、57名の学年を4年間もち上がりました。学年主任が毎年交代したので、子供への関わりや授業づくりについて、色々なやり方や考え方を学ぶことができました。

○ 授業は、子供たちが「見付ける・分かる・できる」喜びを味わう楽しい時間！

○ 叱り方が上手にならないとだめ！

でも、上手に褒めることがもっと大事！

これらは、今も教師として大切にしている言葉です。

平成3年4月、二つ目の勤務校は仏生寺小学校鉾根分校で、1・2年生複式学級を3年間担当しました。そこでは、特に小学1年生には、きめ細かい配慮や準備が必要であり、いつでもすぐに対応できるように心と体にゆとりをもっていることが大

切であることを学びました。それ以来、職場が変わっても、いつ、何があってもいいように、できるだけ早めに仕事に取りかかり、余裕をもって終えるようにしています。30歳手前からその後の十数年は、北部中学校、東京で1年間の内地留学、灘浦中学校、高志会館等で勤務しました。

最も苦労したのは高志会館に勤務した2年間です。一般のお客様を相手に、服装や言葉遣い、お辞儀の仕方、電話の応答、イベントの企画・集客・運営、チケット販売のノルマ…等、慣れないことばかりで失敗と苦労の毎日でした。あるとき、「教員になったはずなのに、どうしてホテルマンの仕事…？」と愚痴をこぼした私に、先輩の先生が「何でこんな仕事かだって？それは、県民のため！」と笑いながらおっしゃいました。「県民のため」という言葉が沁みた私は、このときから「どこへ行こうと、自分のやることは変わらない。人のために尽くすだけ！」という考えをもつようになりました。

高志会館を出てからは、中学校、小学校、教育事務所、市教委、義務教育学校等、10回の異動を重ね、現在に至ります。

色々な職場・職種・立場を経験する中で、辛いことや腹の立つこともたくさんありました。正直、何もかも投げ出したくなった時期もありました。でも、今ではすべて懐かしい思い出です。

現代では、「嫌なことは無理して我慢しなくてもいい！」という考え方が広がっているようですが、最後に、私の好きな歌のフレーズを紹介して、思い出話を終わります。

♪ 苦労はしても 笑い話に 時が変えるよ
心配いらないと 笑った ♪

ICT教育推進委員会

ICTの効果的な活用と児童生徒に付けたい活用能力

西の杜学園 教頭 小間 健郎

1 「ICTの活用スキル」体系表の作成

今年度、ICT教育推進委員会では、各校での取組について情報を共有しました。そして、氷見市の小・中・義務教育学校の児童生徒の実態を基に、各学年で最低限身に付けてほしい活用スキルを体系表にまとめました。この体系表を基に、各学校でのタブレットPC活用が、より充実していくことを願っています。

2 ICT活用推進と実践事例のHPへの掲載

今年度も各学校において、ICT教育推進委員が中心となってICT活用を進めました。各校の事例は、HP「まなDX氷見」に掲載されています。また、「まなDX氷見」は、各校のHPにリンクされている「みんなで学ぼう！ふるさと氷見」から見るすることができます。参考になる事例がたくさんありますので、ぜひご覧ください。

学力向上推進委員会

学力向上に向けた取組の更なる充実を目指して

南部中学校 教頭 焼田 ちあき

1 全国学力・学習状況調査結果の分析、考察

全国学力・学習状況調査の氷見市の結果から、課題がみられた問題を取り上げて解答の傾向等を分析し、今後の指導のポイントをまとめました。「学力向上だより」（11月・教育総合センター発行）に掲載されていますので、今一度ご覧いただき、日々の実践に役立てていただければと思います。

2 「確認問題集」〔国語・算数（数学）〕の作成

小学5年生、中学2年生（義務教育学校8年生）向けの「確認問題集」を作成しました。これは、これまでの学習内容を確認、学力の基礎・基本を固めるきっかけづくりに使っていただければという思いで作成したものです。授業での帯学習、家庭学習での課題等、様々な場面で積極的に活用されることを期待しています。



ひみっ子の夢と希望 きらめき推進事業 講演会

11月12日（火）

演題 「僕が“怪魚ハンター”になったワケ。

～『好き』を突き進んだら仕事になっていた～」

講師 小塚 拓矢 氏 （怪魚ハンター、釣り旅作家、株式会社 Monster Kiss 代表）



氷見市では、氷見の教育基本方針の基本理念として、「ふるさと氷見を愛し、次代を担う人づくり」を掲げ、中学校2年生、義務教育学校8年生を対象に、郷土の著名人や一流選手等を招いて講演会を開催しています。今年度は、「怪魚ハンター」として知られている小塚拓矢氏に講演をしていただきました。小塚氏は、魚が好きで釣りを始めた園児の頃から、生徒会誌を制作する楽しさを味わった中学生時代、仲間と共に自転車で神戸まで旅をした高校生時代、海外で釣り旅を始めた大学生時代、大学院在学中に始めた怪魚釣り執筆・出版までを赤裸々に紹介されました。また、「怪魚ハンター」として、世界を旅して怪魚を釣り上げる活動を続けながら、就職活動や、釣り竿を製作する会社の立ち上げまでを紹介され、困難や挫折を乗り越えた経験とともに、自分の思いや生き方と向き合ったエピソードについて熱く語りかけられました。



- ・学んだことが四つあります。「好き」を続けること。今を楽しむこと。今を楽しむために「苦労」が必要だということ。「挑戦」する気持ちを大切にすること。自分の考え方が変わりました。
- ・『実践』が一番の近道「命を大事にするのと、命を過保護にするのは違う」「『無理だ』と思うときこそチャンス」この三つの言葉がとても印象に残り、自分が変わる、できることがあると改めて考えることができました。（生徒の感想より一部抜粋）

令和6年度 教育論文・教育実践記録募集の審査結果

今年度の教育論文・教育実践記録の募集に対して、小学校・義務教育学校（前期課程）の部に7編、中学校・義務教育学校（後期課程）の部に5編、計12編の応募がありました。主体的な学びを実現させる授業づくりを目指した実践、子供たちがより意欲的、探究的に学びを継続させるために、事前の教材研究に時間をかけ、単元構想を工夫した実践等、多岐にわたる内容でした。

各部の審査結果は、下記のとおりでした。



〔表彰式の様子〕

＜小学校・義務教育学校（前期課程）＞

※ 優秀賞・優良賞は、学校番号順に記載

賞	学校名	氏 名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	海峰小学校	久田 綾希	つくり出す喜びを味わいながら、対話を通して豊かに関わり、学び合う子供の育成
優秀賞	朝日丘小学校	國谷 祐平	子供や保護者の願いを大切にし、友達と楽しく関わり合い、主体的に学習に取り組もうとする子供の育成
優秀賞	湖南小学校	中 郁哉	自他を大切にし、自分の思いを伝え合い、よりよい学級を目指す子供の育成
優良賞	比美乃江小学校	千財 唯 廣澤 裕文	自ら学ぶ子供の育成
優良賞	窪小学校	片原 純怜	思いや願いの実現に向けて探究しながら、自分の可能性を拓いていく子供の育成
優良賞	窪小学校	橘(北河) 琴	音楽と豊かに関わり、自分の思いをのびのびと表現する子供の育成
優良賞	上庄小学校	藤 友希子	一人一人が成長を実感し、「なりたい自分」に向かう子供の育成

＜中学校・義務教育学校（後期課程）＞

賞	学校名	氏 名	研究主題（副題を除く）
最優秀賞	十三中学校	長野智華子	生涯にわたって健康な生活を営む子供の育成
優秀賞	十三中学校	瀬戸いずみ	自ら考え、判断し、進んで学びに向かう生徒の育成
優良賞	南部中学校	竹内 奎人	よりよい学校生活を実現するために、主体的に行動する生徒の育成
優良賞	北部中学校	石川 智大	問題解決の過程と個別最適な学びを取り入れる数学科のカリキュラム開発
優良賞	西條中学校	曾根 果	自然の事物・現象を科学的に探究する生徒の育成



〔実践発表の様子〕

2月12日（水）には、教育委員各位を迎えて、表彰式を行いました。有島教育長からの授賞、山口所長の講評の後、最優秀賞受賞者の海峰小学校 久田 綾希 教諭と十三中学校 長野 智華子 養護教諭から、教育実践発表をしていただきました。

詳細については、当センター発行の「令和6年度教育論文・教育実践記録集」をご覧ください。

新規採用教員 — 1年を振り返って —

学び続ける教師

十二町小学校 笹村 秀聖



不安と期待の始業式から、夢中で駆け抜けた1年が過ぎようとしている。

4年生の担任として子供たちと一緒にオニバスの世話をした。裸足で池に入り、土を耕し、肥料をまいた。暑い日に水草を取り、観察を続け、日ごとに葉が大きくなっていく様子子供たちと喜び合った。子供同士のトラブルや日常業務の多さに挫けそうになったこともあるが、子供の素直な心、生き生きとした表情に勇気付けられ、私自身多くのことを学び、成長することができた1年間であった。

初心を忘れず、今後も子供たちのために学び続ける教師でいたい。

1年を振り返って

宮田小学校 城石 望羽



1年を振り返ると、多くの学びがあった。子供たちの心の声に耳を傾けることで、不安を和らげるサポートの重要性を実感した。

また、教職員や保護者との連携が、より効果的な支援につながることも学んだ。時には、困難に直面することもあったが、教職員の方々の優しさや協力があり、乗り越えることができた。子供たちの笑顔や成長を見守ることができた瞬間にやりがいを感じ、それらが私の頑張る源となっていくと思う。これからも、周りの方への感謝を忘れずに、養護教諭として頼られる存在になりたい。

1年を振り返って

北部中学校 田中 美優



昨年4月から氷見市で教員として勤め、もうすぐ1年が経とうとしている。授業もその他の仕事内容も初めてのことで、学ぶことの多い毎日だった。授業や生徒との関わり方等で壁にぶつかることもあったが、先輩の先生方の温かい言葉や生徒たちの元気な姿に励まされ、自分が恵まれた環境にいることを実感した。教員という仕事の一番のやりがいは、生徒が成長する姿を間近で見ることができることだと思う。この1年の中で生徒の成長を実感できる機会が多くあり、成長の速さに驚かされることも多かった。これからも生徒と共に成長し、信頼される教員を目指していきたい。

日々の授業では、生徒たちが自ら考え、問題を解決する姿を見ることができ、教員としての大きなやりがいになった。一方で、一人一人の生徒の理解度の把握や主体的な学びを促進する工夫等、改善するべき点も多々あると感じる。

生徒が社会で活躍できる力を育てるために、自分がどんな役割を果たせるのか、再度考えさせられる1年となった。常に学び続ける姿勢をもち、未来を切り拓く人材を育成していきたい。

常に学び続ける精神をもって

北部中学校 高柳 直之



昨年度まで6年間埼玉県の高校で教員を務め、今年度富山県に戻ってきた。生まれ育った富山県で教鞭を執ることができ、この上ない喜びを感じている。

学び合う若手教員

(「若手教員研修会」の様子から)

1年を振り返って

北部中学校 小川 早恵花



神戸市の中学校で4年働き、地元である富山県に戻ってきた。同じ中学校教員でも、場所が変わると全く違うルールや考え方があることに戸惑いを感じた1年であり、よく考えた1年でもあった。

生徒たちの安心・安全な学校生活のためにどのような手立てをして、どう言葉かけをするか、トラブルが起こったときに学年というチームでどう動くか、活動を通して生徒に何を学ばせるかなど、様々なことを考えて実践した。時には先輩方から教えをいただいて助けられることもあった。うまくいったことも失敗したことも糧として、これからも考え実践するという探求心をもった教師でありたい。

